



いきいき 学びのプラン

【生涯学習計画】市民だより／86号
(令和8年1月1日発行)

《発行》岸和田市・
岸和田市教育委員会
《編集》岸和田市教育委員会
生涯学習部 生涯学習課
〒596-0072
岸和田市堺町1-1
(市立公民館・中央地区公民館内)
電話：072-423-9615～6
FAX：072-423-3011
メール：
syogaig@city.kishiwada.osaka.jp

目指せ！
全国大会優勝！

岸和田クラブ(シニア・ハイシニア)



岸和田クラブシニア



岸和田クラブハイシニア

岸和田クラブは、2001年にシニア（59歳以上）、2006年にはハイシニア（68歳以上）を設立しました。これまでに、大阪府代表としてシニアは8回、ハイシニアは12回、地区予選大会を突破し全国大会に出場しています。

(写真:岸和田クラブハイシニア池田博さん)

今回の「ひとが咲く。」は、本市を拠点に活動するソフトボールチーム岸和田クラブの皆さんをご紹介します。

ひとが咲く。

【田中監督のお話】



岸和田クラブハイシニアの監督の田中淳夫さんにお話を伺いました。田中さんは、岸和田市ソフトボール連盟の理事長も務められています。

◇ ◆ ◇

岸和田クラブは、現在、シニア22名、ハイシニア25名で活動しています。ほとんどのメンバーが野球やソフトボールの経験者で、中には元プロ野球選手や実業団で活躍していたメンバーもいます。私たちのチームの目標はただ一つ、全国大会で優勝することです。

メンバーがそろえば、全国色んなところに出掛けます。また、これまでの戦績もあって、各地の大会に招待されたり、交流試合にお誘いいただくことも少なくありません。やっぱり試合は、子どものころと同じようにワクワクします。

試合では、相手チームのプレーや戦術を目の当たりにし、色々と学ぶことが多いです。遠征先では、たくさんの方たちと交流し、そこで友達ができること、また、その土地ならではの文化に触れたり、おいしいものを味わうことも楽しみにです。

メンバーが多いため、全員が試合に出場できるわけではありません。しかし、レギュラーでなくても会場に足を運び、チームの運営を手伝ってくれるメンバーがいることはすごくありがたいし、心強いです。これは、チームの雰囲気、メンバーそれぞれの人の良さあってこそだと思います。チーム一丸となり、全国大会優勝という同じ目標に向かって、日々、切磋琢磨しています。

週末のほとんどは試合に出掛け、毎週水曜日の午前中にバッティ

ングや試合形式などの練習をしています。

練習が終わったら、メンバーと一緒に食事をすることもあります。その時には、ソフトボールのことだけでなく、日ごろの色々な話をしたりして、そんな時間も楽しいひとときです。

私にとってソフトボールは「生きがい」です。ソフトボールがあるから心身共に健康でいられると思っています。

◇ ◆ ◇

はつらつとお話される田中さんは、なんと83歳！今も現役でプレーされています。

【練習風景】



久米田公園運動広場での練習にお伺いしました。

「バシッ！」ボールがキャッチャーミットに入る力強い音に続き、活気あふれる掛け声がグラウンドに響き渡ります。

打撃練習では、打者への声掛けのみならず、守備陣にも指示が出され、一球ごとに反省点を共有し、修正します。そして、次の一球へ集中。その間、ベンチではピッチャーの皆さんが投球フォームについて熱く意見交換をしている一幕もありました。

試合形式の練習に切り替わると、「ナイスピッチング！」「ナイスボール！」などの声が飛び交い、さらに練習は熱を帯びます。

練習の合間にお話を伺いました。

キャプテンの山中雄さん(81歳)は、

「メンバーはみんな一生懸命で、個々の技術力も高く、多くを言わなくてもついてきてくれます。試合が終わったら内容を振り返り、改善点をみんなで共有し、次の試

合で反省点を生かすことができるようにしています。いかに相手チームに勝つかを考え、全国大会を目指して活動しています。」

ピッチャーの井上弘さん(73歳)は、

「毎週の練習だけでなく、日頃のトレーニングは欠かせません。これまでの技術を維持するためには練習はサボれない。今までやってきた意地がありますからね。」

練習にいられていたシニアチームの山口弘次さん(64歳)は、

「シニアチームは、年齢的にも平日は仕事をしているメンバーばかりです。みんな時間のやりくりをしながら、試合に臨んでいます。今度、全国優勝したチームと練習試合をすることが決まりました。すごく楽しみです。」

どなたもシャキッと背筋が伸び、さわやかな笑顔が印象的でした。チームの皆さんとお話しさせていたでいて、物事に楽しんで打ち込むこと、熱中することはこんなにも人をいきいきと輝かせるということを実感しました。今後の活躍も期待しています！

メンバー募集

岸和田クラブ(シニア・ハイシニア)

岸和田クラブでは、共に全国大会優勝を目指す仲間を募集しています。我こそは！と思った方は、ぜひ、ホームページ、下記QRコードからご連絡ください。

『岸和田クラブシニア』『岸和田クラブハイシニア』で検索！



〈岸和田クラブシニア〉



〈岸和田クラブハイシニア〉

*QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

もっと教えて「赤シャツ」のこと

岸和田市青少年指導員協議会

親しみをもって「赤シャツ」と呼ばれる、「赤色のシャツを着て」様々な行事で活躍する人たち。
正式には「岸和田市青少年指導員」といいます。

現在、440 人の方々が、各町会・自治会長の推薦により、市長の委嘱を受け岸和田市青少年指導員として活動しています。

今回は、岸和田市青少年指導員協議会会長の竹代 開（たけしろ かい）さんにお話を伺いながら、活動などについてご紹介します。

Q いつから活動していますか？

A 昭和 37 年に結成された岸和田市青少年指導員連絡協議会を母体とし、その実践機関として翌年 5 月に岸和田市青少年指導員協議会（青指協）が結成され、第 1 期「青少年指導員」として 112 人が委嘱を受けました。

Q 赤シャツとロゴマークはいつできたのですか？

A 昭和 40 年に若者の情熱を表す赤いシャツのユニフォームと二つ葉の形をしたバッジ（現在のロゴマーク）ができました。このユニフォームが指導員のシンボルとなっており、活動をするときには常に着用しています。



ロゴマーク



赤シャツ

岸和田市青少年指導員協議会
会長 竹代 開さん

Q 活動の目的を教えてください。普段はどのような活動をしていますか？

A 2 つの目的と、青少年を守る 3 つの活動があります。
主な活動の内容を紹介します。

目的

1. 青少年の健全育成
2. 青少年の非行防止

守る活動

1. 青少年が非行・違法行為へ進まないように守る活動
2. 青少年に対する事故や犯罪から守る活動
3. 青少年を取り巻く健全な環境を守る活動



▶ パトロール

夏は夜店や盆踊り、秋の祭礼、冬は年末夜警や戎祭など、また校区での会議の後にも、市内各所をパトロールしています。地域の方に巡回を依頼されることもあります。

子どもたちが飲酒・喫煙をしていないか、集団で騒がしくしていないかなどを見回り、見つけたときは、優しく、さりげなく声をかけます。対話・助言を行うことで「自分は悪いことをしている」と自覚してもらい、また「見守ってもらえているんだ」と感じてもらうことで、子どもたちの非行防止・犯罪防止につながるよう心がけています。私たちがパトロールすることで子どもたちが犯罪に巻き込まれないための「抑止力」になればとも思っています。



▶ 事故防止

池や川など危険な場所には「ここはあぶない」の看板を設置し、子どもたちに注意を促し事故防止に努めています。また、岸和田が美しい街となるよう、港湾美化活動や、地域での清掃活動などにも協力しています。



▶ 参加・協力

指導員の機動力を生かし、成人式（はたちのつどい）や市民スポーツカーニバルなど市の行事に協力しています。小学校の運動会では駐輪場の整備や、地域イベントへの参加・協力など様々な活動を行っています。



▶ 研修・啓発

指導員の資質向上を目指し、各校区で研修会を実施しています。警察官や学校の先生を講師に迎え、現在の子どもたちを取り巻く状況についてお話を聴いたり、人権問題、防災などについても学んだりしています。地区市民協議会や地域のみなさんにご参加いただき連携を深めている校区もあります。

また、他の団体と協力し、非行防止等の啓発活動も行っています。



Q どういう組織で運営されていますか？

A 会長を筆頭に副会長、会計、会計監査がいます。また、専門部として 4 つの部会があり、部長を中心に活動しています。月に一度は校区の代表者が集まり、情報交換などを行うことで情報の共有や校区間の連携を図っています。

役員のみなさん
11 月 3 日 市民スポーツ
カーニバルにて



育成部

全指導員や各校区との連携を図り、指導員活動が円滑に進むよう取り組んでいます。また、他の青少年関係団体との連絡や調整も行っています。

企画部

新人指導員向けの研修や、各校区の研修内容を共有する報告会を実施しています。2 年に 1 度は全指導員を対象とした研修会を行っています。

広報部

青指の活動や役割などの周知のため年 2 回広報紙「赤しゃつ」を発行しています。市民のみなさんに親しんでいただける紙面作りを目指しています。

環境部

青少年を取り巻く環境を整える活動をしています。昨年 7 月に、環境部主催で「若年層の薬物汚染」についての勉強会を行いました。

多彩な「赤シャツ」の活動の一部を写真で紹介します。

子どもたちの健やかな成長をねがい、地域の身近な存在として活動しています。

「大阪府青少年健全育成条例」では、基本施策として「青少年の健やかな成長にふさわしい環境を創り、青少年の非行を未然に防ぐための活動を推し進めること」と定めています。また、国の「こども大綱」では、「こどもや若者に関わる様々な関係者の協力なくして、こども・若者を支えていくことはできない」としています。地域でのつながりが希薄化していく中で、子どもたちを温かく見守ってくれる青少年指導員のみなさんの活動はなくてはならないものとなっています。

きけんです

危険箇所に
看板設置
近づかないで！



見回っています

パトロール

暑い夏も寒い冬も巡回
しています。



年末夜警



9月祭礼



夜店パトロール

がんばりました



笑顔いっぱい春木校区の子どもたちと一緒に。
子どもたちの笑顔を見るとほのぼのします。
指導員は各校区で招集係として協力しました。

S N S で話題です



蜻蛉池公園で初日の出を
迎えよう！

毎年元旦に行われる「初日の出ハイキング」を光明校区の青少年指導員が企画・運営しています。最近は若者の参加者も増えています。



「朝陽サンデー 絆」では焼き芋の振る舞い。甘くておいしいよ。
(主催：朝陽地区市民協議会
青少年部会・文化体育部会)

おいしいよ！食べてって！！



「山直地域ふれあいまつり 繋」でカレーを販売。活気あふれる声飛び交います。
(主催：山直地域ふれあいまつり
繋 実行委員会)

市民スポーツ
カーニバル

役員は景品配布
でスタンバイ。



各地区で行われるイベントに参加・協力

「大芝地区文化祭」では、焼きそばを販売。一生懸命焼いています。
(主催：大芝連合運営協議会、
大芝地区公民館)



毎年12月に行われる荒木町の餅つき大会に新条校区の指導員も参加しています。

60年にわたる活動を振り返る記念誌を発刊しました



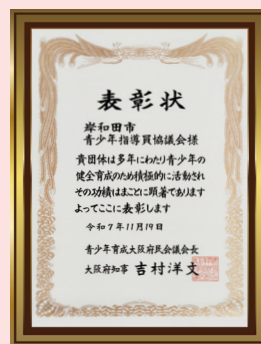
Q 60周年記念誌の内容について教えてください。
また、表紙の「開心見誠」という言葉を選んだ理由はなぜですか？

A 令和4年に設立60周年を迎え、記念誌を発刊しました。各校区の地域の特色と活動内容や、本協議会のあゆみなどを掲載しています。表紙の言葉は「子どもの心を開いて、誠実に育つように」と選びました。

※ 記念誌は図書館で借りることができます。

TOPICS!

活動の実績が認められ表彰されました



昨年11月、地域において、多年にわたり青少年の健全育成運動に尽力・貢献したとして本協議会が青少年育成大阪府民会議（※）より表彰されました。

※ 青少年の健全な育成を図ることを目的に設置された会議。

Q 指導員になって良かったことは何ですか？

A 市や各校区のイベントなどで子どもたちの笑顔を見ることはもちろんうれしいですが、指導員はじめ各団体の方々と知り合い、新しい人間関係が築けたことも良かった点です。

Q これからの活動について教えてください。

A 現在、若者の間ではSNSの普及により様々な情報に簡単にアクセスできることで、薬物や闇バイトなどの問題が増加しています。こうした現況の中で各関係機関と協力・情報共有しながら、子どもたちが「加害者」にも「被害者」にもならないよう見守っていくとともに、常に指導員の知識のバージョンアップも図っていきたいです。子どもたちが素直で優しい心を育むことができるよう、これからも地域のみなさんと連携しながら、指導員として「さらに何ができるのか」を考えていきたいと思っています。

Q 指導員になるのは、どのような方々ですか？

A 市内の23小学校区（旭・太田は1校区としています）ごとに、「青少年の健全育成に深い理解と熱意を有し、行動力がある人」「校区の実情に明るく、住民からの信望が厚い人」が町会・自治会長から推薦され、市長の委嘱を受けて指導員となります。任期は2年ですが、再任も可能です。現在まで、延べ1万4千人以上が委嘱されました。指導員は各校区から推薦されていますので、私は「指導員に悪い人なし」と思っています。

講師
インタビュー

「やってみたい！」をカタチに／

公民館・青少年会館があなたの学びを応援します！

本市には、公民館・青少年会館がいくつもあり、子どもから高齢者まであらゆる世代を対象に、年間を通して多彩な講座が日々開催されています。今回は、これらの講座で指導にあたる講師のみなさんの中から2名の先生をクローズアップし、その活動や講座への想いをご紹介します。

大宮地区公民館

定期講座

「腸がよるこぶ発酵食」

講師 北島祐子さん



〇発酵食について

定期講座では、糀をはじめとした発酵食品について学びながら、調理をします。発酵食とは、微生物の働きによって発酵させた食品のことを指し、代表的なものに甘酒やみそ、しょうゆなどがあります。これらには、腸内環境を整える働きがあり、私たちの健康に大きな影響を与えます。

腸内細菌のバランスが良くなると、脳の状態も変わり、その影響で体全体の調子が整います。腸は、迷走神経を通じて体のすべての臓器や皮膚と直接つながっています。つまり、腸内環境を変えていくことが健康への第一歩で、発酵食はその土台を支える欠かせない存在です。

〇おすすめの発酵食品と効果について

果について

おすすめしたいのは「みそ」です。みそは発酵食の基本であり、毎日の食事に取り入れやすい食品です。発酵食品は、便秘などの改善に効果があり、腸が元気になることで、気分がスツキリしたり、考えが前向きになります。

発酵食品を通じて、まずは「食」から整え始め、そこから生活の質の向上や心の健康にもつながっていく、そんな意識で日々を過ごしてもらえたらと思います。明日の健康は今日の食事から始まります。

〇発酵食に興味を持ったきっかけ・関わるようになった経緯について

便秘など体調不良が続いていた頃、知り合いから手作りの甘酒をもらいました。美味しいだけでなく、なぜか懐かしさを感じたことをよく覚えています。当時、流行っていた塩糀を



講座の様子

先生の「腸の健康について」のお話は新しい発見がいっぱいです

【短期講座】

聞いて味わう発酵食

～美と健康は勝手にやっこない～
(塩こうじおむすびと豚汁付き！)

日時：2月17日(火)
10時～13時

場所：岸和田市立公民館(堺町)

対象：興味のある方

定員：20名(抽選) 2/5 締切

保育：あり

材料費：700円



申込はこちら



発酵食品をふんだんに使った献立は、心も身体もほっこり温まります

〇大切にしている信条・ motto

トリーについて

「人間万事塞翁が馬」
「禍福は糾える縄の如し」
という2つの言葉です。

どちらも、人生の幸せや不幸は表裏一体で、何が良くても何が悪いかはすぐには分からないという意味を持っています。

一見マイナスに見える出来事も、あとになって振り返れば大切な学びや転機になっていることがある。だからこそ、どんな出来事にも意味があると受けとめ、前向きに生きることを大事にしています。

特に大切にしているのは、「感謝」の気持ちです。「当たり前なんてない、すべては感謝でできている」そんな生き方のヒントを、講座でお伝えできればと思っています。

家庭教育学級講座

セルフメンテ

講師 元林観さん



〇東洋医学に興味を持ったきっかけについて

障害のあるわが子をめぐる家族間の意見の相違や周囲に相談できない孤立感に悩まされていた時期に、「心身のバランスを整えて健康を維持する」という東洋医学の考えに出会ったことが転機となり、その教えを学び始めました。

東洋医学を学ぶうちに自分の家族だけでなく、悩みや不調を抱えるみなさんに心と身体を整える大切さを伝えたいという思いで活動しています。

〇これまでに公民館で実施した講座について

した講座について

令和6年度に市立公民館で、東洋医学の考えをベースに心や身体バランスを整える内容の定期講座「東洋医学によるカラダとココロの処方箋」の講師を務めました。

特別な道具や経済的な負担なく、日々の生活の中で無理なくできるセルフケアを学ぶ内容となりました。まずは自分が笑顔になることが「家族の幸せ」の近道になると考えています。



講座の様子

和やかな雰囲気です講座は進みます

【短期講座】

癒しを「する」時間～セルフお灸で安らぎを～
お灸とお茶菓子で癒しタイム

日時：2月27日(金)
10時～12時

場所：岸和田市立公民館(堺町)

対象：癒しの必要な方

定員：16名(抽選) 2/5 締切

保育：あり

材料費：1,000円



申込はこちら

〇講座で伝えたいこと

親は子どもの健康や幸せを願うあまり、無意識のうちに自分のことを後回しにしてしまいがちです。

しかし、自分の心と身体が健康でなければ、大切な子どもを守ることができません。自分のことを第一に思う時間が、子どもの幸せにつながるということを伝えていきたいです。

〇これからの活動について

障害のある子どもたちは、成長するにつれて公的

なることをみなさんに知ってもらいたいのです。また、令和6年度と7年度にまちづくり実践プロジェクト事業の採択を受けて、自閉症の方が見ている世界を体験して学ぶ「VR(バーチャルリアリティ)を使った障害理解」講座を開催しました。

自閉症の方の物の見え方や聞こえ方などを知ることや、どのような配慮が必要かを学ぶことができます。

多くの方にこの体験をしていただくことで障害への理解が広がり、誰もが安心して暮らせる温かい社会に向かっていくことを願っています。



市長もVR体験をしました

また、家族の高齢化により自宅での生活が難しくなる障害者のみなさんが安心して暮らすことができるよう、個々のニーズに合わせた柔軟な対応ができるグループホームを作り、それぞれのペースで社会とのつながりを持ち続けられるサポートをしたいと思っています。

これらの活動を通して、誰もが安心して暮らせる地域社会を実現していきたいと考えています。